

人とペットと災害対策

ペットの災害対策に関する考え方は、時代とともに変化しています。大切な家族の一員を守るために、何が必要か考えてみましょう。



★まずは飼い主である「あなた」の安全確保を！

大規模災害では、自治体などの支援(公助)が始まるまでの間、飼い主自身の行動(自助)や、互いの助け合い(共助)が必要となる場面があります。

- 飼い主が自らの安全を確保することが、災害時のペットの安全につながる。
- 普段からのペットの躰(しつけ)や健康管理が、災害時や避難生活で重要になる。
- 災害時はペットを落ち着かせ、逸走やケガに注意しながら避難する。

★家族・ペットのいる「場所」をチェック☑

災害発生時、家族が必ず一緒の場所にいるとは限りません。あなたが職場にいるときでも、自宅にいる家族の安全を守り、無事に再会するために、身の回りを確認してみましょう。

小さな子どもや高齢者にとって安全な場所は、ペットにとっても安全な場所と言えます。

☑ 家具の転倒防止対策は？

タンスなどは固定、キャスター付き家具はロックする、戸棚にはストッパーを付ける。

☑ 窓ガラスなどの飛散防止対策は？

ガラス片はペットがケガするだけでなく、飼い主の避難の妨げにもなる。

☑ ペットの飼育場所は安全？

小さな置物でも、重さによっては致命傷になりえる。飼い主の留守中でも逃げ込めるよう、頑丈なテーブルやベッドの下などにケージを置くのも一案。



☑ ペットの熱中症対策は？

停電でエアコンが止まることを考え、少しでも熱中症のリスクを軽減する工夫をする。(遮熱・遮光カーテンや冷却ボードの用意、通気口による風通しの確保など)。

★備えておく「コト」をチェック☑

☑ 家族の避難・合流の手順は？

家族全員が無事に再会できるよう、災害時の行動予定を共有しておく。待ち合わせ場所は具体的に決め、二次候補も選定する。

例)「○×小学校の体育館入口に集合。ダメな場合は、△□公民館に行く。」

☑ ペットの躰(しつけ)はできている？

他の人や動物がいても、威嚇したり吠えたりせず落ち着いていられるように育てておくことで、避難所での受け入れにつながる。また、避難所ではケージに入る機会が多くなるため、ハウストレーニングも重要。



✓ 迷子対策は？

万が一はぐれてしまったときのために、迷子札などを装着する(犬の場合は、鑑札と狂犬病予防注射済票も)。また、自分のペットが何を着けているかを訊かれたら答えられるように。

✓ ペットの健康管理は？

平時からワクチン接種やノミ・ダニ予防が重要。また、ペットも人と同じく、急激な環境の変化によるストレスで体調を崩しやすくなるため、普段以上に注意深く見守り、異常を見つけた時はすぐに獣医師に相談する。



★備えておく「モノ」をチェック✓

✓ 水やペットフードなどの買い置きは？

消費期限を考え、「複数個常備しておき、1個使ったら1個買い足す(ローリング・ストック方式)」で備える。排泄物処理袋も、避難所の衛生確保のために重要。



✓ 薬や療法食のストックは？

普段使っているメーカーの療法食が入手できない場合に備え、代替品を前もって調べておく。また、薬や処方箋の写真を携帯に保存しておくことで、獣医師の先生が対応しやすくなる。

✓ リード、首輪、キャリーケージは？

犬は係留する必要があるため、リードや首輪を準備する。抜けやすい胴輪や伸縮性のリードは避ける。室内飼いの場合、犬も飼い主も首輪の装着作業に慣れていないことがあるため、定期的に装着訓練をする。

猫の避難生活には、キャリーケージが必須。経年劣化したケージは、中に入った猫が暴れた際にケガをするおそれがあるため、定期的に点検する。

多頭飼いをしている方は、その運搬方法も考えておく必要がある。



★手に入るもので工夫しよう！

- ビニール袋 … 何かと用途が広く、段ボールにかぶせれば防寒可能な犬小屋も作れる。
- 新聞紙 … 敷物や防寒材代わりに。細かく裂いてトイレ砂の代用にも使える。
- 段ボール … 暴れるペットは、ケージを間仕切りしてあげると落ち着く場合がある。
- ガムテープ … 加工・補修だけでなく、ガムテープに直接記入して貼り付けることで、伝言メモ、迷子札、ケージ識別札など、様々な用途に使える。



過去の経験に学び、次の災害に備えていくことが、失われた尊い命に報いることにつながるのではないのでしょうか。